

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190600086		
法人名	一般社団法人グッデイ		
事業所名	グッデイすぎないグループホーム		
所在地	岐阜県羽島郡笠松町二見町15-1		
自己評価作成日	令和 2年 7月 1日	評価結果市町村受理日	令和 2年 10月 2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は併設施設として通所介護・小規模多機能居宅介護・居宅介護支援事業所があり、様々な介護ニーズに対し対応できる体制作りを行っている。そのため、当施設の通所介護や小規模多機能居宅介護を利用されていた方が、そのままグループホームに安心して入居されている。また、元々の母体は医療法人であり、医療との連携も密接であるため、医療依存度の高い方もグループホームで安心して過ごす事ができるのも当施設の強みである。この他、グループホームで働く職員全員が正規職員として勤務しており、職員も安心して仕事を行う環境が整い、高い介護の質も保っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detai_i_022_kani=&ri_gyosyoCd=2190600086-00&ServicCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和2年8月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療機関を中心に様々な事業所が併設されている利点がホームの運営に活かされている。医療連携を密に行っているため、胃ろうやバルーン留置などの受け入れも可能で、看取りについても利用者・家族の希望に沿って実施されている。また、様々な事情に応じて事業所間を移動する際には、アセスメント等の情報について、書面だけでなく口頭でも申し伝えられ共有されている。利用者同士の交流もあり、2ヶ月に1回は事業所合同で行事が催されている。職員処遇においては、職務規定を見直したり、オンライン動画を活用した職場内研修を取り入れたりしている。また、人事考課制度を取り入れ、半年に1回の面談や文書による初心の振り返りを行う等、働きがいや介護スキルの向上に力を入れている。入居者や家族の意見には可能な限り応え、脳トレや生け花等のレクリエーションの充実を図ったり、SNSを活用した情報提供や面会の実施等の取り組みを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	サービスの意義や役割を日々考え、毎日の朝・夕の申し送りで唱和することで意識づけ実践につなげると共に、月1回のホーム会議で職員全員で話し合いの場を設けている。	今年度から、理念を基に挨拶や職員間チームワーク、学ぶ姿勢等、7項目が職務規定として定められた。ホーム内に掲示したり、毎月のホーム会議で取り上げたりすることで、職員への周知を徹底させ、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年法人全体での開催のお祭りは地域ボランティアの方々が参加して下さり、より一層交流を深め地域へ還元できる事の一つとして積極的に取り組んでいる。	自治会に加入しており、春のお祭り等、地域行事での関りを通じて地域との交流を深めている。また、自治会が主催する認知症カフェにも参加している。これら行事は、現在、コロナ禍により見合わせているが、状況が落ち着けば再開の予定であるとの事である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームで生活している利用者様の理解を求め、地域民生委員様からの相談などを受け実践経験を活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域民生委員様の多数の参加があり、役所福祉課、包括支援センター、家族様、利用者様など意見・要望など話し合い、議題によって専門意見が得られるメンバーに参加いただいでサービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回、開催日を決めて開催しており、多くの出席がある。ホーム運営等の報告を行い、参加者からの意見交換が行われている。次回の開催については、オンラインで実施する方向で調整中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営を行う中で疑問・質問などは、その都度連絡しアドバイスをいただいている。施設内勉強の講師を依頼、ご協力いただいている。	行政が主催する公民館での研修や催しについて連絡をもらい、ホームの職員が研修に参加したり、利用者の作品を展示したりしている。日頃は、待機状況の確認や入居希望者の紹介、事故報告等して連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスク委員会にて身体拘束について話し合い正しく理解し、役所に相談、意見を求めながら家族様にもご理解いただき取り組んでいる。	リスク委員会は2ヶ月に1回開催され、各事業所から職員1名が出席し、事例検討、対策等について情報共有している。現在は身体拘束の事例はないが、ホーム会議を活用してスピーチロック等について勉強会を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修や職員会議等で普段からも注意をし自宅や事業所内で虐待が見過ごされないよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様で活用されている方もおられ支援している。又、他利用者様・家族様に周知していただくために勉強会開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な時間を取り説明を行い、納得を得た上で契約を行っている。又、報酬加算の説明、料金改定等、入所時の契約に限らず必要に応じ説明確認をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会会の開催より率直な意見をお聞きしたり、面会時には家族様に、ご利用者の意見をお尋ねしていただき、その意見を会議で話し合い質の向上に努めています。口頭にてためらう家族等様には「御意見箱」を設置している。	面会時には声かけに心がけ、意見を伺うようにしている。コロナ禍により面会が自粛され、面会に行けないと言う意見を汲み取り、オンラインによる面会システムについて整備し、家族への案内を始めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とコミュニケーションを多く取れるよう心掛け職員の意見に耳を傾け、働く意欲の向上や質の確保、利用者様の満足に繋がるようし運営改善に繋げている。	人事考課制度を実施し、半年に1回、上司との面談が行われている。個人目標の進捗確認に加え、日頃の接遇や業務に対する意見を聞く機会としている。出された意見は集約され、ホームの運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期に人事考課をベースに、職員の日ごろの努力や実績を認めると共に、向上心を持って働ける職場作りを努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度を導入し、半年に1回に面談を通して職員と目標設定を行いスキル向上を目指している。また、内部・外部研修を掲示し外部講師をお招きし、意欲的に研修会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数事業所との連帯事業に取り組み、同業事業所とのネットワークができ質向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に、ご本人様・ご家族様と面談を行う際に、プライバシーの保護に十分配慮しながら安心して相談できる雰囲気作り、お話をしっかり聴き受け止め、信頼関係を築けるようしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に、家族様のお話をしっかりと聴き、家族様の立場になって、その気持ちを受け止め、安心して入居していただけるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状態や家族様の要望などをふまえ、包括支援センターや他事業所と連携しており適切なサービスができるようしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは生活者として生きられるよう支援する所なので、残された能力を十分に発揮できる場所を提供できるように話し合いながら共に支え合い、人生の先輩として尊厳をもって接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員本位にならず、家族様との関わりの時間を計画するなど、家族様との絆を深めるように努力し良い関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の散歩や地域の行事に参加することで馴染みの人々にと会うことができ、併設のデイサービスや小規模多機能のサービス利用される方が気軽に立ち寄ることができ継続的に支援できている。	コロナ禍の状況にあり、面会や外出での交流は控えている。手紙が送られてきた際に、返信できるようハガキの作成を手伝ったり、送られてきた写真を居室内に飾ったりしている。家族からの聞き取りにより、馴染みの店等の場所や生活歴等を把握している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者様同士の会話の懸け橋となれるよう心掛け、利用者様が孤立しないよう努め、お互いの状態を理解し合い支え合うようサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の家族様にも行事の案内を出し施設行事に参加いただくなど、その後の経過を見守ったり主治医からの協力もいただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションの中で利用者様の希望・意向を把握し努めるように努力している。又家族様から本人様の生活歴等を伺い、利用者様本位のケアができるよう心がけます。	日頃の支援を通して利用者の意向の把握に努めている。例えば、利用者の希望を取り入れ、レクリエーションや脳トレ等リハビリの充実につなげている。また、意思表示ができない入居者に対しても声かけに努め、表情等から思いを汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自分らしく生活できるよう、入居前のアセスメントや趣味、嗜好などを把握すると共に、プライバシーに配慮しこれまでの暮らしや馴染みを関係を築きながら、発見したことを付け加え職員会議で話し合いケアに活かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしく生活していただけるように、生活のリズム把握に努めています。職員会議や普段のコミュニケーションの中で利用者様の情報を共有し統一したサービスが提供できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様・家族様より課題や意向、主治医からのアドバイスも取り入れ、担当者会議をふまえて介護計画を作成し目標達成度を定期的に評価して見直しを図っている。	モニタリングは日頃の職員間の会話や特記事項等を基に日常的に行われ、ケアのあり方を検討し、プランにつなげている。プランの見直しで、身体機能の低下のある方に機能訓練を取り入れた結果、車椅子での移動が可能になる等、利用者の自立の支援に活かされたとの事である。	担当者会議について、家族の参加をより促すべく工夫に向けた取り組みや、多職種間での検討や情報共有の強化に向けた取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に記入し、朝・夕の申し送りにて情報を共有しながらケア方針を決めて実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のニーズにあわせ、その時々に応じ入浴時間や食事の形態等、柔軟な支援を臨機応変にするよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括支援センター・民生委員様の情報の提供、消防署・町内会の避難訓練の協力、保育所・小学校・レクボランティアとの交流など、いろいろな協力を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様・家族様が希望するかかりつけ医で月2回の定期往診を実施 緊急時は主治医・看護師との連帯を図り指示を得ている。往診の結果は家族様に連絡している。	毎月定期的に母体法人の医療機関からの往診がある。他のかかりつけ医の場合や他科受診については家族による受診をお願いしている。往診の結果は家族に電話で伝えたり、検査結果等は書面を送付したりしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間365日、常時看護師と連絡できる体制を整えており、異変時は医療面の相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際し本人様や家族様が安心して治療・ケア等受けられる様に情報など提供医療機関との連携し、退院時には病院関係者や本人様・家族様と退院計画を話し合いをしながら安心していただけるようしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、本人様・家族様の意向を聞いている。状態の変化に応じ、十分に担当者会議を開催し、出来る限り本人様・家族様の意向に沿えるようにしている。近隣の病院の協力体制や看護師から重度化や終末期に向けたケアの勉強会もしている。	終末期ケアを実施しており、今年度も複数件の看取りを行っている。契約時に方針を説明し、同意書で意向を確認している。看取りを行う段階に入った場合、再度詳しい説明を行い、同意を頂いた上でできる限りの支援をしている。	看取りの経験も多く、支援体制についても整っている。今後とも、看取り後の振り返り等も勉強会に取り入れる等、チームでの看取りケアの強化に向けた取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常日頃からヒヤリハット報告書や事故報告書にて職員全員で発生要因について話し合いを行ったり定期的な勉強会を行っている。また、ヒヤリハット委員会にて法人全体でリスク管理を共有している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練・消化訓練実施を実施している。利用者様の身体状況など情報の提供をしており地域の協力体制ができています。	年に2回、避難訓練を実施している。地域の人々と情報交換を行い、避難場所や避難経路等を確認している。緊急時の連絡簿が作成されている。	今後予想される異常気象に備えるべく、運営推進会議等の話し合いの場を通し、自治会や消防署の協力を得て、多様な想定を含めた避難訓練を行う等、より一層具体的な災害対策の体制に向けた取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム会議にてプライバシー保護の取り組みに関する勉強会を行い、利用者様一人ひとりの豊富な生活の知恵を十分発揮できるような場をつくり、尊厳を重んじ人生の先輩として敬う姿勢を意識している。	挨拶や言葉づかい、目線等、接遇の基本を勉強会で確認している。利用者一人ひとりの人格を尊重し、利用者の個性を踏まえた声かけに努める等、穏やかに過ごしていただける様、心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	落ち着いた雰囲気の中で、馴染みの職員がゆっくり利用者様の話を傾聴し、職員の価値観を押し付ける事無く、本人様自身で判断できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の気持ちを優先した個別ケアができるよう支援し、ケアプランに基づき個別ケアの実践をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った好みの洋服を着ていただく支援や馴染みの美容師の来所にてヘアカット・パーマなどしている。女性利用者様には化粧のサポートもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に配膳や下膳に参加していただき職員と一緒に楽しく行っている。誕生会には利用者様の好まれるメニューを選択していただくなど希望により外食や出前も行っている。	食事は複数の業者の献立から利用者の嗜好に合わせて選択している。利用者の食事が楽しみなものになるよう行事食や誕生会メニューを実施している。コロナ禍で外食は行けないが、利用者の希望を踏まえて、うなぎ弁当を出前してもらおう等外食の気分を味わえるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食事を提供し、日頃の食事の中で利用者様の嗜好を理解できるように努め、食事摂取・水分摂取の把握をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には声掛けをし、利用者様それぞれの力に応じた口腔ケアを行っている。提携歯科医師の協力や訪問治療も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用にて誘導のタイミングがつかめ気持ち良い排泄ができている。個々に合わせたトイレ誘導、サポートをしている。	ひとり一人の排泄パターンを把握し、利用者の状況に合わせて声かけをし、トイレ誘導を行っている。身体機能の低下により、おむつをしている場合には、離床時、タイミングを見てトイレでの排泄介助を行う等、自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活の中で適度の運動を促し、個々の排便リズムをつかみ出来る限り自然排便を促すための工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外の入浴を実施している。その日の本人様の気分や体調に応じ時間など柔軟に対応している。	利用者の体調や意向を確認し、入浴支援を行っている。週2回の入浴を基本とし、利用者の状況や気分に合わせて実施している。個浴で見守りの介助を行っているが、重度化し、入浴が困難な場合には、シャワー浴と足浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで生活していただき、室温調整と静かな環境に気を配り快適に入眠出来るようにしている。生活のリズムを整え休憩もその時々でサポートしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的や副作用を理解し服薬には職員一人一人が責任を持って確実に服用できるよう支援している。又、主治医・薬局からの情報提供・指導などある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った日替わりのレクリエーションや役割・楽しみができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「今日は天気がいいね」の言葉にあわせ散歩・ドライブに出かけたり、利用者様の希望に沿い支援している	今年春からコロナ禍等の社会的状況を鑑み、外出行事は控えている。例年は近隣の八幡神社へのお参りや散歩を行う等、外出支援をしている。外出の代替としてホーム内でカフェを設け、外出気分を味わってもらう等の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	遠足での土産買いや地域のお祭りの屋台で買い物で自身で品物を選び購入しお金に触れ支払いができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・暑中見舞いなど個人の力に応じて支援し家族様とのやり取りがある。電話は希望に応じサポートしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同スペースのリビングは整理整頓を心掛け、居心地がよく、活動しやすい場所とできるよう努めている。	利用者が過ごすリビングは、密にならないよう整理整頓に心がけるとともに、季節の花や利用者の貼り絵等の作品を飾り、利用者が心地良く過ごせるような空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の気の合う、合わないを考慮して、テーブル席についていただいているが、その日の本人様の気分によって席は自由に座っていただくなど、その用途に合わせてテーブルの配置も変化させている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた日用品を持ち込んでいただき、家族様の写真や好きな花を飾り、利用者様が落ちついて過ごせるよう工夫している。	居室への持ち込みは自由で、本人の馴染みのあるものを持ち込んでいただき、その人の生活スタイルに合わせた居室づくりに努め、その人らしい雰囲気の中で過ごしていただけるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険防止が利用者様の行動を制限しないよう必要最小限で抑えるよう努めています。利用者の身体状況に合わせ、その都度環境を整えるようにしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190600086		
法人名	一般社団法人グッデイ		
事業所名	グッデイすぎないグループホーム		
所在地	岐阜県羽島郡笠松町二見町15-1		
自己評価作成日	令和 2年 7月 1日	評価結果市町村受理日	令和 2年 10月 2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_i_022_kani%3D%3E&ji_gyosyoCd=2190600086-00&ServicCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和2年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は併設施設として通所介護・小規模多機能居宅介護・居宅介護支援事業所があり、様々な介護ニーズに対し対応できる体制作りを行っている。そのため、当施設の通所介護や小規模多機能居宅介護を利用されていた方が、そのままグループホームに安心して入居されている。また、元々の母体は医療法人であり、医療との連携も密接であるため、医療依存度の高い方もグループホームで安心して過ごす事ができるのも当施設の強みである。この他、グループホームで働く職員全員が正規職員として勤務しており、職員も安心して仕事を行う環境が整い、高い介護の質も保っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	サービスの意義や役割を日々考え、毎日の朝・夕の申し送りで唱和することで意識づけ実践につなげると共に、月1回のホーム会議で職員全員で話し合いの場を設けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年法人全体での開催のお祭りは地域ボランティアの方々が参加して下さり、より一層交流を深め地域へ還元できる事の一つとして積極的に取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームで生活している利用者様の理解を求め、地域民生委員様からの相談などを受け実践経験を活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域民生委員様の多数の参加があり、役所福祉課、包括支援センター、家族様、利用者様など意見・要望など話し合い、議題によって専門意見が得られるメンバーに参加いただいてサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営を行う中で疑問・質問などは、その都度連絡しアドバイスをいただいている。施設内勉強の講師を依頼、ご協力いただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスク委員会にて身体拘束について話し合い正しく理解し、役所に相談、意見を求めながら家族様にもご理解いただき取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修や職員会議等で普段からも注意をし自宅や事業所内で虐待が見過ごされないよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様で活用されている方もおられ支援している。又、他利用者様・家族様に周知していただくために勉強会開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な時間を取り説明を行い、納得を得た上で契約を行っている。又、報酬加算の説明、料金改定等、入所時の契約に限らず必要に応じ説明確認をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等の開催より率直な意見をお聞きしたり、面会時には家族様に、ご利用者の意見をお尋ねしていただき、その意見を会議で話し合い質の向上に努めています。口頭にてためらう家族等様には「御意見箱」を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とコミュニケーションを多く取れるよう心掛け職員の意見に耳を傾け、働く意欲の向上や質の確保、利用者様の満足に繋がるようし運営改善に繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期に人事考課をベースに、職員の日ごろの努力や実績を認めると共に、向上心を持って働ける職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度を導入し、半年に1回に面談を通して職員と目標設定を行いスキル向上を目指している。また、内部・外部研修を掲示し外部講師をお招きし、意欲的に研修会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数事業所との連帯事業に取り組み、同業事業所とのネットワークができ質向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に、ご本人様・ご家族様と面談を行う際に、プライバシーの保護に十分配慮しながら安心して相談できる雰囲気作り、お話をしっかり聴き受け止め、信頼関係を築けるようしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に、家族様のお話をしっかりと聴き、家族様の立場になって、その気持ちを受け止め、安心して入居していただけるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状態や家族様の要望などをふまえ、包括支援センターや他事業所と連携しており適切なサービスができるようしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは生活者として生きられるよう支援する所なので、残された能力を十分に発揮できる場所を提供できるように話し合いながら共に支え合い、人生の先輩として尊厳をもって接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員本位にならず、家族様との関わりの時間を計画するなど、家族様との絆を深めるように努力し良い関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の散歩や地域の行事に参加することで馴染みの人々と会うことができ、併設のデイサービスや小規模多機能のサービス利用される方が気軽に立ち寄ることができ継続的に支援できている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者様同士の会話の懸け橋となれるよう心掛け、利用者様が孤立しないよう努め、お互いの状態を理解し合い支え合うようサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の家族様にも行事の案内を出し施設行事に参加いただくなど、その後の経過を見守ったり主治医からの協力もいただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションの中で利用者様の希望・意向を把握し努めるように努力している。又家族様から本人様の生活歴等を伺い、利用者様本位のケアができるよう心がけます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自分らしく生活できるよう、入居前のアセスメントや趣味、嗜好など把握すると共に、プライバシーに配慮しこれまでの暮らしや馴染みを関係を築きながら、発見したことを付け加え職員会議で話し合いケアに活かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしく生活していただけるように、生活のリズム把握に努めています。職員会議や普段のコミュニケーションの中で利用者様の情報を共有し統一したサービスが提供できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様・家族様より課題や意向、主治医からのアドバイスも取り入れ、担当者会議をふまえて介護計画を作成し目標達成度を定期的に評価して見直しを図っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に記入し、朝・夕の申し送りにて情報を共有しながらケア方針を決めて実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のニーズにあわせ、その時々に応じ入浴時間や食事の形態等、柔軟な支援を臨機応変にするよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括支援センター・民生委員様の情報の提供、消防署・町内会の避難訓練の協力、保育所・小学校・レクボランテアとの交流など、いろいろな協力を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様・家族様が希望するかかりつけ医で月2回の定期往診を実施 緊急時は主治医・看護師との連帯を図り指示を得ている。往診の結果は家族様に連絡している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間365日、常時看護師と連絡できる体制を整えており、異変時は医療面の相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際し本人様や家族様が安心して治療・ケア等受けられる様に情報など提供医療機関との連携し、退院時には病院関係者や本人様・家族様と退院計画を話し合いをしながら安心していただけるようしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、本人様・家族様の意向を聞いている。状態の変化に応じ、十分に担当者会議を開催し、出来る限り本人様・家族様の意向に沿えるようにしている。近隣の病院の協力体制や看護師から重度化や終末期に向けたケアの勉強会もしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常日頃からヒヤリハット報告書や事故報告書にて職員全員で発生要因について話し合いを行ったり定期的な勉強会を行っている。また、ヒヤリハット委員会にて法人全体でリスク管理を共有している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練・消化訓練実施を実施している。利用者様の身体状況など情報の提供をしており地域の協力体制ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム会議にてプライバシー保護の取り組みに関する勉強会を行い、利用者様一人ひとりの豊富な生活の知恵を十分発揮できるような場をつくり、尊厳を重んじ人生の先輩として敬う姿勢を意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	落ち着いた雰囲気の中で、馴染みの職員がゆっくり利用者様の話を傾聴し、職員の価値観を押し付ける事無く、本人様自身で判断できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の気持ちを優先した個別ケアができるよう支援し、ケアプランに基づき個別ケアの実践をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った好みの洋服を着ていただく支援や馴染みの美容師の来所にてヘアカット・パーマなどしている。女性利用者様には化粧のサポートもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に配膳や下膳に参加していただき職員と一緒に楽しく行っている。誕生会には利用者様の好まれるメニューを選択していただくなど希望により外食や出前も行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食事を提供し、日頃の食事の中で利用者様の嗜好を理解できるように努め、食事摂取・水分摂取の把握をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には声掛けをし、利用者様それぞれの力に応じた口腔ケアを行っている。提携歯科医師の協力や訪問治療も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用にて誘導のタイミングがつかめ気持ち良い排泄ができている。個々に合わせたトイレ誘導、サポートをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活の中で適度の運動を促し、個々の排便リズムをつかみ出来る限り自然排便を促すための工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外の入浴を実施している。その日の本人様の気分や体調に応じ時間など柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで生活していただき、室温調整と静かな環境に気を配り快適に入眠出来るようにしている。生活のリズムを整え休憩もその時々でサポートしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的や副作用を理解し服薬には職員一人一人が責任を持って確実に服用できるよう支援している。又、主治医・薬局からの情報提供・指導などある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った日替わりのレクリエーションや役割・楽しみができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「今日は天気がいいね」の言葉にあわせ散歩・ドライブに出かけたり、利用者様の希望に沿って支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	遠足での土産買いや地域のお祭りの屋台で買い物で自身で品物を選び購入しお金に触れ支払いができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・暑中見舞いなど個人の力に応じて支援し家族様とのやり取りがある。電話は希望に応じサポートしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同スペースのリビングは整理整頓を心掛け、居心地がよく、活動しやすい場所とできるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の気の合う、合わないを考慮して、テーブル席についていただいているが、その日の本人様の気分によって席は自由に座っていただくなど、その用途に合わせテーブルの配置も変化させている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた日用品を持ち込んでいただき、家族様の写真や好きな花を飾り、利用者様が落ちついて過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険防止が利用者様の行動を制限しないよう必要最小限で抑えるよう努めています。利用者の身体状況に合わせ、その都度環境を整えるようにしています。		